

大学体育スポーツ高度化共同専攻(3年制博士課程)

Joint Doctoral Program in Advanced Physical Education and Sports for Higher Education

授与する学位の名称	博士(体育スポーツ学) [Doctor of Philosophy in Physical Education and Sport Studies]	
人材養成目的	体育スポーツ現場の教育と研究の循環を効果的に行える、高等教育における学術的職業人としての高度な体育教員を養成する。	
養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・大学体育スポーツを先導する確かな専門的知識と実技教育能力を持つ人材。 ・大学体育スポーツ現場の実践知を探究し、その研究成果を教育へと循環させることができる実践的研究能力を持つ人材。 ・高等教育における体育スポーツ教育の質保証を先導する高度指導者に必要な教養を持つ人材。 	
修了後の進路	高等教育機関(大学・短大・高専)における体育教員、体育スポーツ関連機関の職員など	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 実践的研究能力: 大学体育スポーツ現場における事象を対象として、実践的かつ有用な研究を実施する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① オリジナリティが高く、有益な研究テーマを設定できるか ② 的確な仮説の創出と論理的かつ客観的な仮説の検証が行えるか 	大学体育研究演習、体育スポーツ実践的研究方法論、体育スポーツ実践的研究演習 I, II, III、博士論文作成
2. 実践的教育能力: 大学体育スポーツの指導場面における教育実践能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 対象者の特性に配慮した適切な授業やトレーニングの実施計画が立案できるか ② 立案した計画を実施、検証、改善する能力があるか 	大学体育論、大学体育授業演習 I, II, III、体育スポーツ実践的指導演習、教師行動分析アプリによる解析
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつわかりやすく伝える能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるときに、質問に的確に答えることができるか 	大学体育研究演習、学会発表、ポスター発表など
4. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	<ul style="list-style-type: none"> ① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか 	つくばサマーインスティテュート、国外での活動経験、外国人(留学生を含む)との共同研究、TOEIC 得点、国際会議発表、英語論文など
5. 倫理観: 大学体育スポーツの指導者としての高い倫理観	<ul style="list-style-type: none"> ① 指導対象の人権を尊重し、常に公平公正な指導が行えるか ② 社会的規範を遵守し、指導者としての自覚を常に持っているか 	コーチングの哲学と倫理、課外活動指導実績
学位論文に係る評価の基準		
<p>1. 研究テーマ及び研究内容の独創性</p> <p>ア 研究テーマ、問題設定、研究方法、考察・結論等に独創性が認められる。</p> <p>イ 研究成果は、現場への有用性や学界への貢献等、学術的・社会的意義が明確である。</p> <p>2. 研究デザイン</p> <p>ア 研究テーマに沿って問題が適切に設定され、それを受けて論述が適切に展開されている。</p> <p>イ 論理に一貫性があり、結論が明確に導き出されている。</p> <p>3. 研究方法</p> <p>ア 研究テーマ・目的及び問題設定に対して適切な研究方法が選択されている。</p> <p>イ 研究方法を深く理解し、資料・データの適切な収集・取扱いや分析法を習得している。</p> <p>ウ 結果の解釈、考察は妥当である。</p> <p>エ 倫理的配慮がなされている。</p> <p>4. 当該研究領域に対する理解</p> <p>先行研究や当該分野の研究動向、関連研究について、幅広くかつ確に理解している。</p> <p>5. 論文の構成・体裁</p> <p>緒言、方法、結果、考察、結論等の構成と内容、引用の方法及び注・文献の示し方等が適切であり、学術論文としての体裁が整っている。</p> <p>6. 審査の体制、審査方法</p> <p>学位論文審査委員会は主査1名と副査3名以上(他専攻教員1名を含む)の合計4名以上で構成される。主査または副査のいずれか1名は、主指導教員及び副指導教員に含まれない他専攻所属教員とする。学位論文審査委員会では学位論文の概要を30分で発表し、その後質疑応答を行い、申請者の単位取得の確認と合わせて、学位論文に係る評価の基準を満たしているか審査を行う。</p>		

カリキュラム・ポリシー	
<p>実践的教育能力と実践的研究能力の養成を目的として、遠隔講義システムを利用しながら、筑波大学と鹿屋体育大学の双方の教育・研究資源を活用できるよう、下記のような教育課程を編成する。</p>	
教育課程の編成方針	<p>教育課程は、4つの科目群「実践的教育能力育成科目」「実践的研究能力育成科目」「高度指導者教養育成科目」「博士論文研究能力育成科目」より構成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「実践的教育能力育成科目」：大学体育や大学スポーツを先導する確かな専門的知識と実技教育能力を身につける。 ・「実践的研究能力育成科目」：大学体育や大学スポーツ現場の実践知を探求し、その研究成果を教育へと循環させることができる実践的研究能力を身につける。 ・「高度指導者教養育成科目」：大学体育や大学スポーツを先導する指導者として必要な教養を身につける。 ・「博士論文研究能力育成科目」：実践的研究論文や博士論文研究計画書の作成力やプレゼンテーション力、高度な大学体育スポーツ指導者として求められる実践的教育力を身につける。
学修の方法・プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・主に1・2年次において実践的教育能力、実践的研究能力、高度指導者教養とともに、博士論文課題演習を履修する。 ・2年次秋学期に、博士論文研究能力の到達度審査として実施される Qualifying Examination に合格した者が博士論文の執筆に着手する。 ・3年目に博士論文を作成し、審査に合格した者は博士の学位を取得する。
学修成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・博士論文課題演習Ⅱ：2年次秋学期に、博士論文研究能力の到達度審査である Qualifying Examination を実施し、実践的研究能力及び実践的教育能力を審査する。 ・博士論文：3年次秋学期に博士論文予備審査及び博士論文審査を実施する。
アドミッション・ポリシー	
求める人材	<p>大学体育・大学スポーツの教育指導現場における問題解決のための実践的教育・研究能力獲得に高い意欲を持つとともに、修士課程（専攻領域問わず）を経るなど一定水準の学術的研究能力を身につけた人材を求める。</p>
入学選抜方針	<ul style="list-style-type: none"> ・書類審査（150点）：研究計画、研究実績、指導実績、教育実績の評価 ・口述試験（100点）：研究計画のプレゼンテーション、質疑応答 ・英語（TOEICまたはTOEFLスコア：50点に換算）